

第5検討部会 会議録

会議の名称	第21回 第5検討部会
開催日時	平成20年8月5日(火)10時00分から12時05分
開催場所	職員会館 会議室
出席者	(部会長)石井副委員長 (副部会長)豊田委員、伊田(昭)委員 (委員)庵地委員、木岡委員、椎橋委員、山田委員
会議内容	1. 素案策定の経過説明、内容説明 2. 広報・PIの検討状況説明 3. 素案策定の体制、進め方について
会議資料	調整部会資料一式
発言内容	<p>第20回部会の議事録の確認 ・承認</p> <p>素案策定の経過説明(木岡委員) ・編集委員会では5月以降5部会から案が出てきたものを一つにまとめる作業を行ってきた。1、4部会案はある程度形になっており、2、3、5部会案は盛り込みたい事項のようになっており、編集作業にあたっては激しいやりとりもあったが、徐々にお互いの意見をすり合わせ、ここまで練り上げた。こうした議論も無駄ではなかったと思う。</p> <p>素案の主な論点の説明(木岡委員) (名称) ・川口基本条例という案は「自治」を使わないことにより最高規範性を明確にし、全体に係る条例であることを強調したいという意味がある。一方で「自治」を明確にし、市民の意見を反映し市政を運営することが重要であるという意見も根強かった。公募をしたらという提案もあった。全体を練り上げる中でいい案も出てくるということで、意見集約はしなかった。</p> <p>(前文) ・第一部会案を基本に作成した。基本理念。基本原則は、前文と目的に入れることとした。「おやこ育ち」については、難しい、子どもを持っていない人はどうなのかという意見も出て文章には含めていないが、趣旨は盛り込んでいる。</p> <p>(総則) ・最初に基本条例全体を通じての理念をどうするか議論を行い、「市民が主人公」にした。</p> <p>(条例の位置付け) ・条例の位置づけについては最高規範性を盛り込んだが、法的には条例同士で優劣はつけられないようだ。精神的なものになる。従って、「尊重」</p>

	<p>するという文言に落ち着いたが、「適合」させるべきとの意見もあった。</p> <p>(定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民」と「自治」のみの定義とした。市民には法人を除いた。 <p>(地域社会のビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「喜びを持ち」、「あいさつのある」、「感動がわかちあえる」など感情や心のことを盛り込んでいるが条例に馴染むかという意見があった。 <p>(市民)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民が主人公」という視点から市政に参加した人たちだけを優遇してはいけないことを盛り込んだ。 ・「まちづくり」という言葉を入れるかどうか議論になった。 ・「協働」については、市民と行政はそもそも対等でないので、それをどのように盛り込むべきかが議論になった。各部会で検討して欲しい。 ・本部会からの提案の地域協議会については盛り込んだ。 ・市政へのアクセス手段については市民から提案できるシステムを作ることについて合意をしたが、既存の制度でいいのか、新たな制度を作るのかという点で議論が分かれた。 ・住民投票については、発議権の要件まで盛り込むか、常設型にするかで意見が分かれた。 <p>(議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在議会でも議会改革委員会が設置され議論されているので、条例では大枠の方向性を示して、あとは議会で議論してもらおうということとした。 ・「組織」というのは議会事務局を指している。 <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開討論会は選挙法との関係で難しいとの意見があった。 <p>(行政)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部監査の導入については意見が分かれた。 ・総合計画については運営管理適正化委員会の設置を盛り込むべきという意見があったが、本条例の検証委員会との重複感があり、検討が必要である。 ・職員の能力向上については、大分県での事件もあり、採用に情実を加えないという文章を加えた。 ・国や県等との連携に関しては、平和までいれるのかという意見があった。 <p>(コンプライアンス・倫理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスについては、わざわざいれるのかという意見もあった。 ・市政オンブズマンについてはとりあえず入れている。検証委員会との関係も整理しないといけない。 <p>(条例の運用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証委員会については、何を誰が検証するのか不明確なので入れないほうがいいのかという意見もあったが、大勢は何かないと作りっぱなしになるという意見であった。私としては第5部会からの提案のように、見守り
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

で、おかしいところがあれば市長や議会に答申するということがいいと思うが、指導、勧告までできるようにすべきとの意見もあった。

素案に対する意見

- ・ これまでは「わが部会では」というように発言してきたが、これからはこの素案を基本に、「この素案では」ということで発言して欲しい。部会としての意見のとりまとめはしない。(部会長)
- ・ 各部会を代表して編集委員会に出てきているので、そこの意見の対立があるのはやむを得なかった。
- ・ 立派なたたき台ができたと思う。
- ・ 細かいことまで議論して作成したことが理解できた。話し合うことが大切である。またこれを知らしめることも大切である。
- ・ まとめるのが大変だったと思う。これからこれを基に議論していけばいい。
- ・ 先日の運営調整部会では、編集委員長から内容について議論が不十分であったという説明があった。これからその点について議論をしていく必要がある。拙速にまとめるべきではない。中身を揉んでいる間に市民の理解を深めていければと思う。広報・PIのネタはできた。
- ・ 白熱した議論はよりよいものに向かうプロセスである。川口にもこのような議論ができる人たちがいることが嬉しい。
- ・ 漢字が多く格調が高いが、わかりやすさと対極にある。そのバランスが難しい。
- ・ おやこ育ちについてはファミリーサポートセンターや社協の集まりでも話しており、多くの人共感してくれる。言葉はともかく、その精神を入れて欲しい。
- ・ よくまとめて頂いた。これを基に話し合っていけばいいものができる。

広報・PIの検討状況について(伊田委員)

- ・ チーム会議は11回を重ねた。もりだくさんの提案をしたが、まずできることからということで、市民フォーラムの実施についての議論に集中した。9/14にフレンジアで開催する。キャッチフレーズは「咲かせようまちづくりの花」。ここでは周知を目的とし、市民の声は対話集会で集めたい。
- ・ 委員一人当たり2名の集客をお願いしたい。口コミが一番である。
- ・ 1週間くらい前にボランティアで川口駅頭でちらしの配布を行うので、手伝える方はお願いしたい。
- ・ 当日の手伝いについては、改めて皆さんにお願いする。
- ・ 対話集会は各部会1箇所で行うことを想定している。
- ・ 各市民団体、各町会・自治会から自治基本条例に対する意見・要望に備えて出前集会を準備している。

広報・PIの進め方に関する意見

- ・素案をホームページに掲載したらどうか。途中の過程を公開することは川口にとって画期的であり、重要である。
- ・事務局で検討する。
- ・対話集会の集客が大変である。地域にお願いするといつもの人が来る。主婦やサラリーマンなどからの意見を聞きたい。
- ・百人集めようとか考えないほうがいいのか。市政モニターやPTAの役員など個人を特定して20名程度でいいから意見をもらうことの方が意味がある。
- ・「自治基本条例」をテーマに掲げると興味を持ってない。「今後のまちづくりを考える」とか「川口市の将来を考える」などと大きく構えた方がいい。
- ・個人を特定するのもいいが、広く来てもらうことも必要である。

素案作成の体制、進め方について

- ・編集委員会は各部会の意見を持ち寄る場であった。議論を通じてここまで来たことを評価すべきである。今後はここからスタートする。編集委員は部会のよろいを縫いで、議論し、素案にまとめたい。
- ・編集委員を増強するという考えもあるが、どうか。(部会長)
- ・10人位で議論するのが一番いい。もしいろいろな事情があり、変わりたいたいという人がいれば変わってもいいと思う。
- ・編集委員会にある程度とりまとめの権限を与えないと先に進まないと思うがどうか。(部会長)
- ・権限という意味がわからない。
- ・意見をまとめ素案を作成する権限である。最終的なオーソライズは委員会になる。
- ・編集委員の編集作業中に部会は開催できないでいた。編集委員としても部会の人々に意見を聞きたい時もある。編集作業の途中で部会も開催して欲しい。
- ・部会メンバーとしてもどうなっているのか知りたいし、意見も言いたい。
- ・部会を再編成するという意見もあるがどうか。(部会長)
- ・それは必要ない。

(まとめ)

- ・素案は、これまで通り編集委員会に編集権限を与えてまとめてもらう。編集委員は部会代表という立場でなく、編集作業を行う。
- ・編集委員を変わって欲しいという人がいれば代替する。
- ・編集委員会の合間に部会を開催し、状況を報告するとともに、詰めないといけない事項について部会メンバーの意見を収集する。

次回以降日程 (予定)	第22回検討部会 8月21日(木) 10:00~12:00 第7回運営調整部会 9月8日(月) 18:30~20:30 第23回検討部会 10月7日(火) 10:00~12:00
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------